

日本－タイ・ベトナム国際共同研究「革新的材料のための機能性バイオナノテクノロジー」 平成29年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	遺伝物質の構造および初期感染過程のナノ可視化法の開発による バイオナノテクノロジーの新たな展開
研究課題名（英文）	Development of nano-visualization for structural analyses of genetic materials and early infection process for further innovation of functional bio-nanotechnology
日本側研究代表者氏名	福井 希一
所属・役職	大阪大学薬学研究科・特任教授
研究期間	平成30年1月1日～平成33年3月31日

## 1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
福井 希一	大阪大学大学院・薬学研究科・ 特任教授	研究総括リーダー
近江戸 伸子	神戸大学大学院・人間発達環境 学研究科・教授	植物染色体試料の作製及び構造解析
若生 俊行	農業食品産業技術総合研究機 構・高度解析センター・上級研 究員	染色体構造の3次元画像解析
高田 英明	産業技術総合研究所・バイオメ ディカル研究部門・主任研究員	ヒト染色体試料の作製

## 2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

### 日本側研究チームの本年度研究目標及び計画概要

- ・ 1月：タイカセサート大学から博士課程学生の受け入れる応募書類を作成し、応募する。
- ・ 2月3日にバンコクのカセサート大学にてベトナムチームも含め日、タイ、ベトナムのすべてのプロジェクト参画主要メンバーが集まり、キックオフワークショップを開催する。主要な議題はナノテクノロジーが拓く新しいバイオの世界の概念を共有する事、プロジェクトに用いる

生物材料の当否について検討する事、実際にどのような試料を作製する必要があるかなど、研究を開始する上での技術的指導である。さらに名古屋議定書に対する対応方針を策定する。

- ・ 3月末までに全期間の具体的な研究実施計画を達成度の判断基準と時期を明記し、阪大が中心となって策定する。
- ・ 3月末まで名古屋議定書関連文書作成し、阪大からタイおよびベトナムにおける所管官庁に提出する。
- ・ 3月末までに阪大・神戸大では先の研究実施計画に基づき、予備実験を開始する。わが国の例ではないが、ベトナムは本プロジェクトに in-Kind の資格で参画しているところから、実際どの程度研究が可能かをキックオフWSにて打ち合わせ、事情を勘案する。
- ・ 3月末までにスカイプを用いた日本、タイ、ベトナムとの定期ミーティングを立ち上げる。座長は3か国で輪番制とする。

### 3. 日本側研究チームの実施概要

- ・ 1月：タイカセサート大学から博士課程学生の受け入れる応募書類を作成し、応募した。
- ・ 2月3日にバンコクのカセサート大学にてベトナムチームも含め日、タイ、ベトナムのすべてのプロジェクト参画主要メンバーが集まり、キックオフシンポジウムを開催した。主要な議題はナノテクノロジーが拓く新しいバイオの世界の概念を共有する事、プロジェクトに用いる生物材料の当否について検討する事、実際にどのような試料の作製をする必要があるかなど、研究を開始する上での技術的指導であった。さらに名古屋議定書に対する対応方針を策定した。
- ・ 3月末までに全期間の具体的な研究実施計画を達成度の判断基準と時期について議論した。
- ・ 5月末まで名古屋議定書関連文書作成し、阪大からタイにおける所管官庁に提出した。
- ・ 3月末までに阪大・神戸大では先の研究実施計画に基づき、予備実験を開始した。わが国の例ではないが、ベトナムは本プロジェクトに in-Kind の資格で参画しているところから、実際どの程度研究が可能かをキックオフWSにて打ち合わせ、支援の具体的方策を決定した。
- ・ 3月末までにスカイプを用いた日本、タイ間のスカイプによる会議を開催した。